



とよおか

農香だより

No.40
2018.

8



但東地域のピーマン

頑張ってます！農地利用最適化推進活動…2P
特集 伝統農産物・特産農産物の紹介…4P
シリーズ きばっとんなる人らぁ…5P
我が町の郷土食、伝統食を次世代へ…7P

菅谷地区
及び室見台
(出石地域)



観音寺ため池
10万立方メートル

菅谷地区及び室見台は豊岡市の南部に位置し、出石の中心地から八鹿方面へ浅間トンネルまでの地区です。地区内には、水田が一望できる鶴山があり、百年前には山の中ほどに茶店があり、コウノトリの見学のためたくさんの方が来られました。私の祖母から子どものころお菓子をもらうためよく遊びに行っていたと聞かれました。自然と生き物が共生した素晴らしい環境です。

さて、農地利用最適化推進委員となり早くも一年が経過しました。昨年八月二日に弘道、室埴地域の農地パトロールを行い、遊休農地の確認を行いました。町中では農業従事者が少ない、水路の管理が難しい、地主がわからない等、山間地では農地が狭い、獣害がひどい等いろいろな問題があります。

地域の現状を見ると、山間地には、ため池が四個所あり、中でも但馬で一番大きな貯水量十萬立方メートルの観音寺ため池があります。草刈、泥上げ、水量調節等を行い、菅谷地区の農業用水を確保



室見台 64ヘクタール

しています。またハザードマップを作成して、水害にも備えています。

室見台は農地面積六十四ヘクタール、一区画百二十アールの大規模ほ場です。用水、排水は農道の下にあり水路が見えないほ場です。農地内に民家、工場が無くすべてがフェンスで囲まれており獣害にも安心です。農地の集約化により耕作希望面積が多く、遊休農地はありません。

しかし、山間地になると農業従事者の高齢化、新規就農者の減少により遊休農地が増えていきます。

地区内には耕作放棄の茶畑があり、簡単に他の作物を作ることができないため、お茶栽培、収穫を希望される方の相談に応じたいと思います。

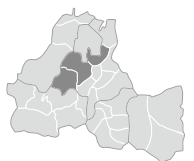
近年では定年された六十代をはじめ、会社勤めながら農業を一生懸命頑張られ、規模拡大されている方も多く見受けられます。

儲かる農業、環境にやさしい魅力のある農業になるよう、地域の皆様のお力になればと思います。

ご協力よろしく願います。

(推進委員 杉本武己)

豊岡北地区
(奈佐・五柱・
田鶴野地域)



新体制になって一年、同じ農協支店管内でもあり、同農地パトロール班としての農地利用最適化推進活動の現況、課題と今後の活動について紹介します。

当地区は、中山間地域・平坦地域・都市化された地域の大きく三つに区分されます。

平坦地域における担い手等への農地利用の集積・集約化については、こしばらくは問題はないと思います。

しかし、中山間地域および都市化地域では遊休農地の発生防止・解消が問題となっています。以前あった米の生産調整によって、水稲細目書からはずれた谷間の水田や利便性の悪い不整形田、都市化による転用等により細分化された農地、及び未整備水田が鳥獣害・高齢化、後継者不在等々によって年々遊休農地化しており、大きな課題となっています。

現状は、土地の所有者は、荒廃・山地化防止のため年一回の耕運又は除草を行っているところです。このままでは、山地化していくのが目に見えております。

解消には個人の力では何もできないと思います。各集落内で力を合わせていかなければなりません。

①棚田(谷田の水田)による牛の遊



遊休農地の状況
(農地パトロールにて)

(推進委員 原田 益男)

牧地利用

②水源確保のために各集落の耕地面積の二〜三%のビオトープ(湿地)化

③鳥獣害防止の大型檻作り

④地力維持作物(レンゲ・牧草等)の栽培

⑤柿渋用の柿栽培

などの提案を当該地域の委員と一緒に考えていますが、排水と鳥獣害防止が大きな課題になります。

村田推進委員長の「農家と関わることによって意見を何でも聞こう」をモットーに「何かありましたか」「何をどうすれば」と意見を交換し合いながら、我々が人生生涯現役を目指すように農地も生涯現役で維持できるように農家の皆様と互いに知恵を出し合って、努力していきたいと思っています。

あなたの地域、地区の農業委員と農地利用最適化推進委員です。
下の活動内容に関すること等、農地・農業のことをお気軽にご相談ください。

地域名	地 区 名	農 業 委 員	農 地 利 用 最 適 化 推 進 委 員	地域名	地 区 名	農 業 委 員	農 地 利 用 最 適 化 推 進 委 員
		氏 名	氏 名			氏 名	氏 名
豊岡地域	八条・豊岡地区全域	西沢 泰裕	宮村 吉一	日高地域	国府地区全域	上坂 光広	植村 政明
	中筋地区全域		池畑 一己		八代地区全域		平野 薫
	三江地区全域	齋藤 善久	松島 一夫		日高地区全域	宮岡 正則	安岡 平夫
	田鶴野地区全域	村田 憲夫	阪井 裕		三方地区全域	宮口 豊隆	水嶋 明彦
	五荘地区全域	蜂須賀久人	原田 益男		清滝地区全域	田中 直喜	西口 覚
	奈佐地区全域		石原 章二		西気地区全域	原 清美	井上 孝
	新田地区全域	北垣 裕次	岡本 光夫	出石地域	弘道・福住・寺坂地区	井谷 勝彦	仲川 弘之
	神美地区全域		栗原 安信		菅谷地区及び室見台		杉本 武己
城崎地域	港地区全域	高尾 利美	絹本 實		小坂地区全域	水嶋 義彦 (田多地・安良を除く)	川口 義昭
	城崎地域全域	石橋 重利	岩本 照雄		小野地区全域	大原 博幸 (田多地・安良を含む)	中務 喜紹
竹野地域	竹野南地区全域	尾口 正信	福丸 義章 (中竹野を含む)	但東地域	資母地区全域	永井 辰正	松本 雅浩
	中竹野・竹野地区全域	加悦富美恵	天野 辰男 (中竹野を除く)		高橋地区全域		桑田 均
					合橋地区全域	森井 脩	岡本由紀夫

**平成29年度
農業委員・推進委員の地域での活動内容**

区 分		
農地利用の最適化推進活動	①	農地の売買・貸借（農地利用最適化関連）
	②	農地の出し手・受け手 （掘り起こし・情報の収集・現地踏査等）
	③	農業者の経営意向の把握
	④	人・農地プラン（策定・見直し）
	⑤	農地パトロール・遊休農地対策
	⑥	農地中間管理機構との連絡調整
	⑦	新規就農（就農相談、フォローアップ）
一般活動	①	農地関連相談 （紛争、小作料、相続など、農地利用最適化関連以外）
	②	農政関連情報の収集・提供
	③	農業経営法人化（相談・指導）
	④	集落営農の組織化（相談・指導）
	⑤	農業税制（説明・照会等）
	⑥	農業者年金（受給相談・加入推進等）
	⑦	経営相談
	⑧	農地転用現地確認

このような相談を受けました。

**農地利用最適化推進
委員の交代について**

三江地区全域の農地利用最適化推進委員が佐竹澄雄委員から松島一夫委員へ交代になりました。



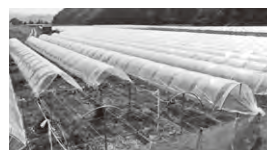
松島委員



昔から農家や地域で大切に守られてきた多くの伝統農産物や特産農産物等を消費者の皆さんに知ってもらい地域農業の振興に役立ててもらうため、平成28年度にマップを作成しました。(No.36農委だより) 今後、特集で農産物等を紹介していきたいと思います。今回は「豊岡ぶどう」と「小野芋」です。農作物を作りたい、農作物を購入したい等関心のある方は農業委員会へお知らせください。

豊岡のぶどう栽培

金剛寺 北垣 威司さん



金剛寺地区のぶどう園

私の住む金剛寺地区では、古くから桃、梨、ぶどうなどの栽培が盛んでした。

特にぶどうは昭和二十年代から栽培されていて、現在でも九戸、約三畝で栽培されています。

当初は山の傾斜地を利用した園地での栽培が多くありましたが、昭和から平成に代わる頃から、耕地整理された水田への平地化が進みました。

鳥獣による被害や積雪によるぶどう棚の倒壊など課題も多くありましたが、現在、豊岡の中では規模の大きい産地になっています。

また、たじま農協にはぶどう部会という組織があります。現在四十四名が所属し、市内各地で栽培に取り組んでいます。生産者の高齢化は進んでいるものの、新たに栽培を始める若者や、定年帰農者も増えてきています。

高温多湿な豊岡盆地での栽培は、ぶどうにも、生産者にとっても厳しい環境ですが、暑い夏を乗り越えて、とても美味しいぶどうになります。特に毎年九月に入り、朝霧が出る頃になると一段と味が良くなります。

栽培品種は、盆前のデラウェアから始まり多くの品種が栽培されています。

一番多く作られているのは、大粒で安定して人気があるピオーネです。その他、赤系、青系のぶどうなど、特に最近人気なのがシャインマスカットに代表される皮ごと食べるぶどうです。豊岡でも栽培が増えており、これからは、皮ごと食べるぶどうの品種が増えてくると思います。

販売は、地元市場である豊岡中央青果を始め、JA、たじままんま、市内各直売所、個人での庭先販売、宅配便を利用した贈答販売などさまざまです。その他量的には僅かですが、東京にある豊岡市のアンテナショップ、コウノトリの恵み豊岡での販売、東京バティスリーキハチへの出荷などにも取り組んでいます。

地元で支持され、また、少しずつ外へ羽ばたく豊岡ぶどう。豊岡の自然の中で、こだわりを持って生産し、豊岡の特産品の一つとしてこれからもより一層消費者から支持されるよう努力していきたいと思っています。

(農業委員 村田憲夫)



樹齢30年のぶどうの木の前で

まぼろしの芋「小野芋」

出石町小野 中村 富蔵さん



出石町小野地区に古くから伝わる里芋で、江戸時代

に入ってきたとされる唐芋です。戦前までは京都祇園の芋専門料亭に出荷していましたが、戦後は生産農家が激減し「まぼろしの芋」と言い伝えられています。

平成二十年頃、ひょうご在来種保存会の山根会長にお会いした時、小野芋の復活を進められ、但馬で現地研修をするのことで参加しました。小野芋の紹介、会員の交流が行われ、県下から参加された多くの皆さんとの繋がりができました。特に豊岡の高石さんとの出会いが小野芋の復活に大きな力となりました。

小野川からもたらされる肥沃な砂質土壌と豊富な水に恵まれ、自



小野芋の収穫祭

家製のボカシ肥をもとに土づくりをし、四月下旬に植え付け、十一月下旬、十二月初旬に

収穫を迎えます。葉や葉柄は淡緑色で青色系、親芋も食べられますが、子芋や孫芋の利用が主になります。

口当たりの良いねっとりした粘り、きめ細かくもちもちした食感があり、濃い味が特徴です。「他の里芋にはないおいしさがあり、シンプルに煮物が一番うまい」と中村富蔵さんは言われています。小野芋のおいしさを広めようと、小野芋保存会の立ち上げ、小野芋料理を味わうバイキング、収穫祭、一年間の作業など大変な協力応援があつて小野芋の復活が進み、現在では小野地区をはじめ地区外でも小野芋の生産者が増え広がっています。

毎年、小野芋を栽培しながら、この地区に小野芋を入れてくれた先人の知恵に感謝し、伝統の芋「小野芋」を守っていこうと思います。

(農業委員 水嶋義彦)



小野芋保存会の皆さま



竹野南営農組合設立総会の様子

目からうろこ！新発想の営農組合 竹野南営農組合

今年1月に設立され4月から営農活動をスタートした、竹野南営農組合の岡田隆男組合長にお話を伺いました。興味深い内容だったので紹介します。

竹野町南部の山間地に位置し、16の小集落からなる竹野南地区は、過疎化、高齢化の影響が顕著で、特に農業では耕作放棄地の増加など多くの課題を抱えています。「集落単位での対策には限界がある。南地区全体で集落営農に取り組むことが必要」との多くの声を受け、竹野南地区コミュニティの「はじめての第一歩計画」に「集落営農と農地の活性化を図る」として事業実施が盛り込まれました。

コミュニティの会長も務められる岡田さんは、数名の有志に声をかけて研究会を立ち上げ検討を重ね、その後全集落から選出された準備委員による協議を経て、コミュニティ事業の一環として営農組合を設立されました。この営農組合はコミュニティの構成団体の一員として竹野南地区コミュニティわいわいみなみに参画されています。

営農組合は、地区を東部と西部、中央の3ブロックに分け、それぞれのブロックに担い手となる数名のオペレーター（耕作及び機械作業を受託する人）を配置、地区内の営農に関する相談窓口を組合に一本化し、組合員からの委託に基づき農地の集約やオペレーターの斡旋を行います。当面は農地の受委託にかかる調整・斡旋事業が主体ですが、将来は機械・施設の保有も考えておられます。また獣害も深刻な課題で、近く専門家を招いて現地調査を実施し、各集落に適した対策を検討するとのことでした。

特産物の栽培事業の展開も目指しておられ、今年度は床瀬へ向かう道路の両側の休耕田を利用して、地元の子供たちと一緒にそばを栽培されます。「そばを食べに行く道中に、一面にそばの花が咲いている景色はいいでしょうが」と笑顔で話されました。



岡田組合長へインタビュー

過疎化、高齢化による農業の衰退は、豊岡市の多くの集落が抱える切実な課題です。今回の竹野南地区の取り組みが少しでも参考になれば幸いです。

（農業委員 齋藤善久）

安心・安全・美味しい米作り

ユメファーム 青山 直也さん(41歳)

青山さんは、2010年お父さんの後を継ぐため、サラリーマンから転職し、日高町奥神鍋で農業を始めることを決意されました。

現在、水稻14ヘクタール、キク、リンドウ、野菜などの作物15アールをお母さん、奥さん、常時雇用の方の4名で経営されています。



農業を始めてから8年経過した今、自分の経営基盤を確立し、農業を経営として成り立たせるのに大変苦労をしたと話されていました。

青山さんが、現在特にこだわっていることは、『農薬を使用しない無農薬栽培』、『天候不順に負けない栽培技術の確立』、『粒が大きく甘みと粘りのあるお米を作る』これらを実践するため、「チーム奥神」や「神鍋コウノトリ生産グループ」など地元の仲間たちと一緒に取り組んでおられます。

趣味を尋ねると、趣味は特にないが、暇なときは、米作りに使用する機械の整備や器具をより使い易いように工夫し、加工したりする事だそうです。ユメファームの作業場には、自分で作った機械、器具や農業機械が、きれいに手入れされ、整然と収納されていました。

農業に対しての夢を尋ねると、『安心・安全・美味しい米作り』、これらの取り組みが、自然豊かな神鍋地域の魅力ある農業として、次の世代に引き継がれることだと力強く話されていました。

2010年に開催された米・食味分析鑑定コンクールでの特別優秀賞をはじめ県知事賞など、数々の賞を受賞されています。『安心・安全・美味しいお米作り』を実践されてこられた賜物だと思います。青山さんの理想とする農業が実現するといいですね。頑張ってください。

（農業委員 田中直喜）



田植えの様子

農業者年金に加入しませんか

老後の備えは万全ですか？

現在65歳の農業者年金受給者の平均余命は、**男性が22年(87歳)、女性が27年(92歳)**です。
女性の老後は男性以上に長い道のりです。

日本人の平均余命は、男性84歳、女性89歳となっており、農業者年金受給者の平均余命の方が長くなっています。

女性農業者の長い老後を
しっかりサポートします

農業者の老後の生活の収入は、 国民年金＋農業者年金が基本です！

国民年金の支給額は月額最高6万5千円、夫婦お二人で約13万円です。
一方、高齢農家の家計費は夫婦お二人で23万8千円が必要となるデータがあります。

→月額約10万円不足！

国民年金の不足分を
しっかりカバーします

家族経営協定を結べば 保険料の国庫補助も 受けられます。

認定農業者で青色申告をしている方と家族経営協定を結んで農業経営に参画している配偶者も保険料の国庫補助が受けられます。

女性の農業経営への参画を
しっかり応援します！

農業者年金の加入には 農地の権利名義は 要りません。

ご主人だけが農業者年金へ加入していたとしたら、先にご主人が亡くなった時、あなたの**老後の支えは国民年金**だけに なってしまいます。

一人一人の備えが大切です。

自らの力で
老後に安心を！

農家の応援団
次世代の担い手を育成します

農業生産法人
有限会社

あした



〒668-0311 兵庫県豊岡市但東町出合150
TEL 0796-54-1133
FAX 0796-54-1134

我が町の郷土食、伝統食を次世代へつなげたい

すりやき



平成28年4月に改正農業委員会法が施行され、本年2月時点において、女性農業委員、女性農地利用最適化推進委員は全国で2612名となりました。今後は、優良農地の確保、活用や遊休農地の発生防止、解消、担い手育成、新規参入促進などの「農地利用の最適化」活動はもとより、食育の推進や農業者の良き相談役として、女性ならではの視点を活かして活動をしていくことが期待されています。

去る2月にひょうご農業委員会女性交流研修会（神戸市ラッセホール）に参加させていただき、各地域の特産物、郷土料理の持ち寄りという企画に我が豊岡市も2品目持参させて頂きましたところ、満場一致で「すりやき」が全国大会に兵庫県代表レシピとして出品することが決まりました。

春夏秋冬を通して、私の幼少期は、つばな、だんじ、しなと、につき、夏野菜は当たり前、はったい粉、桃、栗、柿、山ぶどう、団子、かき餅、げんた餅等々が一年を通してのおやつでした。その中でも少し、異彩をはなっていたのが「すりやき」です。祖母がよく作って食べさせてくれた懐かしいおやつです。

その歴史を少し紹介します。日高町国分寺地区には奈良時代に聖武天皇の命令により建立された但馬国分寺の法灯を受け継ぐ護国山但馬国分寺（浄土宗）があります。国分寺の御本尊様は平安時代の薬師如来像で、毎年7月にご開帳が行われていました。かつて、ご開帳は国分寺地区民を中心とした「ヨシミズ講」が取り仕切っていましたが、現在は寺（檀家）が主体となっています。なお、「ヨシミズ講」を構成する人達は「ケンケンの人」とも呼ばれていたそうです。その時に、お供えし、お茶菓子として、お参りする人々をもてなし、皆でいただくのが「すりやき」です。すりやきとは、そら豆の餡が入った団子^{みょうが}を茗荷の葉で包み蒸した後に、両面をかるく焼いたものです。茗荷の葉を使うのは薬師如来が薬の神様である事に由来したといふことです。レシピを紹介します。是非、一度、お試し下さい。

（農業委員 原 清美）

◆材料(10個分)

団子の分量

だんごの粉	125g
小麦粉	125g
砂糖	15g
水	180cc

そら豆餡の材料

干したそら豆	125g
砂糖	100g
塩	少々
茗荷の葉	20枚

◆そら豆餡の作り方

- ①そら豆を一晩水につける。
- ②圧力鍋でたく。ざるでこし、皮を除く。
こしたものを袋に入れて搾る。
- ③分量の砂糖を加えて煮詰める。

◆団子の作り方

- ①材料全部をこねる。耳たぶぐらいの固さになるようにする。
- ②10等分にして餡を包み、15分程度蒸す。
- ③茗荷の葉で包み、160～170℃に熱したホットプレートで焦げ目がつくくらい焼く。



ファーマーズ マーケット たじまんま

豊岡市八社宮490 TEL0796-22-0300
www.ja-tajima.or.jp/tajimanma

定休日：火曜日
(但し、祝日の場合は営業)



JAたじま

自動灌水装置

但東地域のピーマンは場の脇に、青又は黒色のタンクが背丈ほどの高さに設置されているのを見かけます。これは「日射制御型拍動自動灌水装置」と言い、小型のソーラーポンプで貯水タンクにゆっくり揚水し、貯水タンク内の水位が一定レベルに達すると電磁弁が開き、ほ場内に設置された点滴チューブを通してピーマンの株本に給水され、水位が下がると電磁弁が閉じて再度貯水が行われる装置です。貯水タンク内の2つの水位センサーの間の水が間欠的に（まるで心臓の鼓動のように）配水されることから、拍動タンクと呼ばれ、毎分10リットル程度の水で10アール強の灌水ができます。また、ソーラーポンプで揚水することから作物が水を欲しがると晴天日には多くの灌水を行い、曇天や雨の日にはあまり灌水をしない仕組みになっています。この装置の利点は①肥料を拍動タンク内に投入することにより灌水同時施肥を行うことができること。②土壌水分と肥効が好適に保たれ、収量の増加につながることです。但東地域のピーマン農家では、このシステムを平成18年度から導入し、現在25戸の農家で運用しています。



但東地域のピーマン

但東地域のピーマンの歴史は古く、米の減反政策が始まった昭和44年に転作物として導入されたことに始まります。以降、グリーンアスパラガス、きゅうり、なす、うど、実えんどう、さといも、モロヘイヤ、シルクなす、ツタンカーメンのえんどう、シルクコーンなど様々な野菜が導入されてきましたが、ピーマンは常にその中心にありました。農協の合併により現在は但馬全域に拡大し、ピーマン自動選別包装施設も導入され、現在は近畿圏最大の産地となり、主に大阪、神戸、京都の市場に出荷され高い評価を得ています。

J A たじまのピーマンは、183人の生産者で10万本余が栽培され、約650トンの出荷で、1億9千万円余の売り上げは青果部門の36%を占めています。その中で但東地域は、36人の生産者（20%）で3万8千本（27%）、出荷291トン（45%）、売り上げ9千万円（47%）を占め、但馬ピーマンの中心的存在となっています。これは、但東地域のピーマンの長い歴史の中で築かれてきた高い技術力と生産者の高い生産意欲、そして仲間同士の競争心と協調性が支えているものです。

（農業委員 森井 脩）

農業委員会 事務局職員の異動

平成30年4月1日の人事異動に伴い、職員の異動がありました。

転入

主幹 古谷 明仁（用地課から）

転出

主幹 谷田 芳紀

（選挙管理委員会・監査委員事務局へ）

全国農業新聞を購読してみませんか！



農業の最新情報を提供

週刊（毎週金曜日発行）

月 700円（送料、消費税込）

*お申し込みは
農業委員会事務局へ



農業委員会だより第40号は私たちが担当しました
後列左から 田中直喜、西沢泰裕、森井 脩
前列左から 齋藤善久、宮岡正則、原 清美

（編集委員長 宮岡正則）
農業委員・農地利用最適化推進委員に気軽に声を掛けてご相談下さい。

◇遊休農地の発生防止・解消
◇新規参入の促進など
◇農業委員会では、農地利用の最適化を推進する業務を行っております。
◇担い手への農地利用の集積・集約化
◇遊休農地の発生防止・解消
◇新規参入の促進など

◇今回私たちがとよおか農委だより第四十号で豊岡特産農産物（ピーマン・豊岡ぶどう・小野芋・きばつとん）なる人ら（豊岡市で昨年大規模の竹野南宮農組合発足などを紹介しました。農家の皆さんの少しでも参考になればと考えております。

◇例年七月に農地パトロールを実施しており、各地区農会長等と連絡をとりながら遊休農地の解消を進めて行きたいと思っています。

◇豊岡市農業委員会は、新制度発足から二年目を迎えました。昨年の要望を踏まえ、四月に各地区ブロックで開催された農会長会では、農業委員・推進委員が出席し、自己紹介と活動報告を行いました。

編集後記